

特集

大森山動物園開園50周年を振り返って

大森山動物園が開園50周年を迎えるにあたり、真っ先に取り組んだことは「テーマを決めること」でした。職員全員からアイデアを募り、頭をひねって絞り出したテーマが「ありがとう50年～つながり、ともに未来へ～」です。

これまでの半世紀を支えていただいた多くのお客さまや動物たちに感謝の気持ちを伝え、ともに歩んできた地域の学校・企業・ボランティア団体との「つながり」を再確認し、ともに未来へ進んでいこうとの思いでアニバーサリーイヤーがスタートしました。

3月の開園から11月の閉園までさまざまな記念事業を開催しましたが、その中でも「つながり」を強く感じたイベントや企画について、写真とともに振り返ります。

企画広報担当 主席主査 金 大咲

1 アートで世界とつながる

3月18日、記念すべき50回目の開園セレモニーを彩ってくれたのは、秋田公立美術大学との連携事業「大森山アートプロジェクト」による記念モニュメント2作品でした。この作品は日本・韓国・台湾の美術大学生のプレゼンにより選考されたデザインを、秋田公立美術大学とボランティアガイドたいうの会が共同で制作したものです。大森山動物園の入園ゲートを彩る新たなモニュメントが誕生しました。



作品名「The song of life」



作品名「Oh happy day」



立体制作を手伝うボランティアガイドたいうの会会員と、塗装を担当する美大生

2 パンで笑顔がつながる

4月1日、株式会社たけや製パン様のご協力で「どうぶつコラボパン」を発売しました。「オモリンのホットケーキ」や「ユキヒョウ・ヒカリちゃんのチョコパン」など、9月までに7種類を販売するにあたり、飼育員がアイデアを出したり、パッケージ裏の一言メモを書いたりしました。新しい商品が発表されるたびにみんなの笑顔があふれました。



(株)たけや製パンと飼育員の二人三脚で作ったコラボパン(一部)

- 3月18日 ● 50年目の通常開園スタート
- 大森山アートプロジェクト2022による記念モニュメント2作品をお披露目
- 活性化企画提案事業でさまざまな企業とのコラボグッズが販売開始



栗田支援学校の生徒が制作した記念グッズ「50周年記念グラス」と「ペーパーホルダー」



カラフルなペーパークリップ(秋田協同印刷)と人気動物のクリアファイルセット(秋田中央印刷)

- 7月9日 ● IPP株式会社企画提案 50周年記念プリントラックお披露目
- 13日 ● 男鹿水族館GAO、加茂水族館との3園館連携出前授業を浜田小学校で開催
- 15日 ● 50周年記念親と子のふれあい写生大会～未来の動物園を描こう～開催(～8月6日)
- 23日 ● 50周年記念羊毛イベント「羊毛で作って知ろうヒツジさん!」開催
- 25・26日 ● 50周年記念サマースクール「未来の飼育員は君だ!」開催
- 28日 ● 50周年特別企画「大森山動物園ナイトキャンプ」開催



- 8月2日 ● 「動物園があなたの夢叶えます～動物とつながる Special day～」開催
- 19日 ● 秋田銀行コラボ企画 50周年記念メッセージボード制作ほか
- 29日 ● 新屋図書館コラボ企画第3弾「POPで楽しむ動物の本展」開催(～9月18日)
- 30日 ● 秋田銀行・栗田支援学校コラボ企画 50周年花壇制作

- 10月15日 ● 自然科学学習館との50周年特別共催企画「どうぶつサイエンスII～身近な自然から学ぼう～」開催
- 21日 ● 新屋図書館コラボ企画第4弾「飼育員さんと本のお話をしよう」開催



3月

- 4月1日 ● たけや製パンコラボ企画「どうぶつコラボパン」発売
- 29日 ● 50周年企画写真展「今でも記憶に残る動物たち」開催(～5月7日)
- 30日 ● 大森山ゆうえんちアニバ観覧車リニューアルオープン

4月

- 5月27日 ● 新屋図書館コラボ企画第1弾「出張/新屋図書館・おはなし会」開催
- 6月11日 ● 新屋鹿嶋祭に移動動物園でウサギやフクロウが出張/17日 ● 新屋図書館コラボ企画第2弾「動物園を知るツアー」開催
- 18日 ● 50周年記念キャラバンで鶴岡市立加茂水族館(山形県)へウサギやモルモットが出張!

5月

- 9月1日 ● 開園記念日
- 大森山アートプロジェクト2023「動物園の思い出の写真で作るモザイクアート」お披露目
- 50周年記念映像公開

6月

- 「思い出の写真展」「大森山今昔ものがたりパネル展」開催(～11月30日)

7月

- 情報誌コミュニケーション 開園50周年記念号発行
- 2日 ● 記念式典開催
- キッチンカーフェスタ(～9月3日)
- 特別イベント「アニマル応援隊★学んで作ろう!～オオカミがよるこぶ手ZOOくらアイテム～」開催

8月

- 3日 ● 特別イベント「3園館連携特別キーバーストーク」「50th大森山ウルトラクイズ」開催

9月

- 9日 ● 50周年記念番組「ありがとう50年 これからもZOOっと」放送(AKT秋田テレビ)
- 10日 ● 鳥海イヌワシみらい館(山形県)コラボ企画「ワッシーくん&オモリン大森山クラブDAY」開催

10月

- 18日 ● 動物愛護フェスティバルあきた2023に移動動物園でインコやモルモットが出張!(秋田県動物愛護センター)
- 24日 ● 50周年記念キャラバンで弥生こいの広場(青森県)へワシミミズクやウサギが出張!

3 メッセージで気持ちがつながる

8月19日、株式会社秋田銀行様のご提案で、開園50周年を祝うメッセージボードが制作されました。たくさんの来園者からメッセージを書き込んでいただき、わずか半日でボードは埋め尽くされました。また、8月30日にはガーデンボランティアのあきぎん長生き学校と栗田支援学校の共同作業で記念花壇が制作されました。白いニチニチソウで数字の「50」を表した色鮮やかな花壇は、50周年をお祝いするガーデナーの皆さんの気持ちを来園者に伝えました。



人気子役の永尾柚乃ちゃんもお祝いしてくれました！



気温36度の中で共同制作された記念花壇

4 写真で思い出がつながる

9月1日の開園記念日を飾ったのは、「動物園の思い出の写真で作るモザイクアート」でした。この作品も大森山アートプロジェクトの一環で制作され、開園から50年の間に園内で撮影された家族や動物などのおさまざまな思い出の写真を集めたところ、2,000枚を超えるたくさんの写真が集まりました。この写真を使い、これまでのアートプロジェクトのポスターデザインをモザイクアートにして、入園ゲート前に掲示しました。近くで見ると、たくさんの思い出が集まって一つの作品を作り上げていることがよく分かります。また、応募作品の中から約100枚を厳選し、ビジターセンターで写真展を開催しました。



たくさんの思い出がつながって完成した迫力満点のモザイクアート



思い出の写真を104枚展示

5 みんなの思いが未来へつながる

9月2日、動物園近くの西部市民サービスセンターで開催された「開園50周年記念式典」には、市民や関係団体の皆さん約300人が参加し、日新小学校吹奏楽部の演奏で幕を開けました。第1部ではボランティア団体への感謝状贈呈、未来をテーマにした写生大会の表彰式や作文発表などを行い、第2部では小松園長の講話とパネルディスカッション「大森山動物園の未来を考えよう」を開催しました。パネルディスカッションでは、「動物園の南側の森に散策路を設けて、動物見学と森歩きを両方楽しめたらいい」など、さまざまな提案が飛び出しました。



オープニングを飾った吹奏楽部の演奏



未来の動物園を描いた写生大会表彰式



相場の小松園長、タレント・パティン伊藤さんの提案からエフエム秋田の新番組「オモリンにつき」がスタート

6 まとめ～ともに未来へ～

大森山動物園は、来園者と動物、飼育員と動物などのつながりはもちろんのこと、学校・企業・ボランティア団体など、人と人とのつながりによってここまで歩んで来ました。「つながり、ともに未来へ」は、50周年だけのテーマではなく、この先60周年・70周年の未来にも通じる不変のテーマではないでしょうか。

今回、50周年の大きな節目を応援していただいた関係各位に深く御礼申し上げます。私たちスタッフ一同も新たなシーズンに向かって全力でチャレンジを続けていきますので、今後とも大森山動物園をあたたかく見守ってくださるようお願いいたします。

これからの動物園が目指すもの

～51年目からの挑戦～

飼育展示担当 副参事 高橋 広志

大森山動物園は、訪れるすべての皆さまが、動物たちとの特別な出会いを通じて、楽しく忘れがたい場所になることを願っています。その実現のため、これまでの取り組みをさらに進化させ、秋田市民にとって、いつまでも大切に誇れる場所であり続けるよう、努めてまいります。

当園の展示の特徴の一つは、動物たちととても近くで出会うことです。例えば、サル舎「天空の楽猿」ではサルたちの日常風景を間近で観察でき、「アソヴェの森」では、トナカイやラマを真上から見学することができます。これからも、動物たちを間近でご覧いただくために、動物トレーニングの公開や動物パレードなど、当園の楽しみ方の提供に改良を重ねていきたいと考えます。また、飼育員による動物解説やまんまタイムなどでは、動物たちの最新の情報を盛り込み、これまで以上に興味深い姿をお見せしていきますので、訪れるたびに新しい発見を楽しんでもらえると思います。



サルたちのいきいきとした姿が見られる天空の楽猿



レッサーパンダのまんまタイム

当園ではこれまでに、「なかよしタイム」や「ふれあい教室」、飼育員の解説による動物学習や飼育体験、さらに、大森山の豊かな自然を活用した「自然観察会」や「大森山自然塾」など、動物とのふれあいや自然、生命を感じられるプログラムを試行錯誤しながら行ってまいりました。これからも、このようなプログラムを通じて、学びと発見の場となるよう努力してまいります。そして、これらの体験により、子どもたちに命を慈しむ心や、自然環境保護の意識が芽生えるなど、豊かな人間形成につながる体験学習の場を提供したいと考えています。



2023年から「考えるふれあい教室」を実施。どうしたらモルモットと仲良くなれるかな？

また、当園では「命をつなぐ」ことも動物園の大切な役割と考え、環境保全や種の保存にも取り組んでまいりました。

園内の天然の沼「塩曳瀧」には、日本固有の希少淡水魚である「ゼニタナゴ」が生息しています。ゼニタナゴが生息し続けるためには、繁殖に必要な二枚貝やその二枚貝が安定して生息できる環境などを維持していくことが必要です。市民や関係機関の協力を得ながら、塩曳瀧の調査を行い、展示などによる紹介や普及啓発活動を通して、どうすれば希少な環境にある塩曳瀧を守っていけるのか、生物多様性の保全のために何ができるのかを共に考えていきたいと考えています。

さらに、種の保存の取り組みの面から、当園を代表する動物としてイヌワシがいます。絶滅が危惧されているイヌワシの保護に開園当初から取り組み、2003年には大森山として初の自然繁殖に成功し、その後も飼育方法の工夫や、他園との協力により、多くの繁殖を成功させてきました。将来、野生のイヌワシのために貢献できるよう、他園とも連携を図りながら種の保存活動に取り組んでいきたいと考えています。



イヌワシの親子

私たちは、動物たちの健康を保ち、自然に近い行動ができるよう、常に生活の質の向上に努め、心を込めた日々のケアを続けていきます。来園する皆さまに、生き活きとした動物たちの姿を見ていただくとともに、子どもたちの知的好奇心をくすぐり、ワクワクする学びの場となるよう、さらなる工夫を重ね魅力的な動物園を目指してまいります。どうぞ、大森山の自然の息吹の中で、楽しく豊かなひとときを動物たちと一緒に過ごしてください。

